

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	宮崎
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ①	
事業名	放課後児童クラブの管理運営		
事業概要	市民ニーズに応えられる放課後児童クラブの運営内容を確保するため、運営団体に対する研修会の実施、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、障害のある児童や高学年児童を含め利用者が増加する中で、児童への対応を充実するため、適切な指導員数を配置するとともに、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある児童などの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行い、指導員の資質向上を図ります。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 1,964,464 千円	27年度執行額 千円
	人件費	目安の金額 35,025 千円	課長 0.35 人 係長 1.30 人 職員 2.40 人
		(事業費備考)	
		(人件費備考)	

<input type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
<input type="checkbox"/> 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
<input type="checkbox"/> その他	

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	指導員研修の充実等により、障害児への理解が進み、児童の受入が促進されています。障害児を含め利用者は増加傾向にあるため、今後も適切な指導員数を配置するとともに、その資質向上を図る必要があります。また、開設日時に関する満足度は、高水準を維持していますが、保育所では19時までの延長保育に取り組んでおり、クラブの開設時間との間に差、「小1の壁」が生じています。	見直し内容	児童への指導を充実するため、指導員の配置基準の拡充を行うとともに、指導員の資質向上を図るための研修の実施等に取り組みます。また、利用者ニーズに対応するため、開設時間については、「小1の壁」解消に向けて、開設延長に取り組みます。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	放課後児童クラブ	障害のある児童等を含め利用を希望する児童を受け入れるとともに、児童への対応を適切に行うなど、市民ニーズに応えられるよう運営体制が充実した状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	放課後児童クラブに対する満足度(開所日、開所時間)	75.4 %	平成25年度(75.4%) 比向上		
	クラブごとに開設日や開設時間などの運営状況が異なる中、市民ニーズの多様化への対応を示す指標として掲げました。最終目標は「元気発進! 子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(75.4%)比向上(平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	児童への対応を充実するため、児童おおむね40人に対して、指導員を2人配置し、うち1人は県知事が新たに認定する有資格者とするともに、指導員の資質向上を図るための研修の拡充や、臨床心理士、アドバイザーをクラブに派遣し、指導員に助言等を行います。また、開設時間については、標準化に加え、保育所の延長保育の時間と同じ、19時までの開設延長に取り組めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	19時以降まで開設している放課後児童クラブの割合	13.7 %	前年度比 向上		
	開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質の向上を図ることが放課後児童クラブに対する様々なニーズへの対応につながるため、活動指標として掲げました。				
	障害のある児童の受入	283 人	障害児の 受入推進		
	研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ることが、受入が増加する障害のある児童への適切な対応につながるから、活動指標として掲げました。				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	子ども家庭局
							担当課	保育課
事業名 保育所運営事業							課長名	田中・黒岩
							施策番号	
事業概要 仕事と子育ての両立支援を推進するため、保育に必要性のある子どもは誰でも保育所に入所でき、多様なニーズに応えながら、子どもの健やかな育成を支援する保育サービスの実現を図ります。							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
							(事業費備考)	
コスト	事業費	27年度当初予算額 16,761,187 千円	27年度執行額 千円	目安の金額 5,800 千円	課長 0.20 人 係長 0.20 人 職員 0.20 人			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	本市の保育所の入所定員については、年度当初の受け入れ態勢はおおむね整っていますが、年度の後半にかけて待機児童が発生している状況にあります。さらに、希望する保育所に入所できない未入所児童も生じるなど、待機児童解消に向けた教育・保育の提供が必要です。	見直し内容
			「北九州市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、計画的に教育・保育を提供することで、年間を通じた待機児童の解消を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	待機児童数	計画的に保育所入所定員の拡大を図ることにより、年間を通じて待機児童が解消された状態。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	年度当初(4月)の待機児童数	0 人	0 人		
	現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。今後もこれを維持していくため、成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)				
	年度中途(10月)の待機児童数	220 人	前年度比減		
一部地区では、年度中途から待機児童が生じています。保育需要は、今後も増加すると考えており、最終目標は年間を通じた待機児童の解消を成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	民間保育所の新設や増改築、定員の見直しなどを行い、入所定員の拡大を図ります。保育所を運営する法人に対しては、運営費の一部を助成します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	入所定員の拡大数	137 人	530 人		
	保育所入所定員を拡大させることで、年間を通じた待機児童の解消を目指します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局					
		担当課	幼稚園・こども園課					
		課長名	坂田					
事業名	施設型給付(幼稚園・認定こども園)		施策番号					
			I - 1 - (1) - ①					
事業概要	「子ども・子育て支援制度」に基づき、新制度に移行する私立幼稚園や認定こども園の運営費等を助成します。		<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
			事業手法					
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	(人件費備考)
		364,400 千円	千円			9,300 千円	係長 0.40 人 職員 0.40 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	施設型給付等による財政支援をすることで、教育・保育の質の向上や、保育の量の拡充を図り、待機児童の解消を目指します。	見直し内容 平成27年度 新規事業

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	新制度に移行する私立幼稚園及び認定こども園	新制度へ移行する私立幼稚園及び認定こども園に対して施設型給付等による財政支援を行うことで、教育・保育の質の向上が図られた状態。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	年度中途(10月)の待機児童数	220 人	前年度比減		
	最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、待機児童数を解消することを目標として指標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)				
	幼稚園に対する満足度(施設・環境)	85.5%	平成25年度(85.5%)比向上		
最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、幼稚園に対する満足度を指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(85.5%)比向上 (平成31年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	新制度に移行する私立幼稚園や認定こども園の施設型給付および運営費等の一部を助成します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	施設型給付へ移行する認定こども園数	-	2 箇所		
	新制度へ移行する認定こども園の普及を図ることで、年間を通じた待機児童の解消を目指すため、指標として設定しました。				
	施設型給付へ移行する私立幼稚園数	-	3 箇所		
新制度へ移行する私立幼稚園に対する財政支援を行うことにより、更なる教育・保育の質の向上を目指すため、指標として設定しました。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局	
		担当課	幼稚園・子ども園課・保育課	
		課長名	坂田・田中	
		施策番号		
		I - 1 - (1) - ②		
事業名	地域型保育給付(小規模保育)			
事業概要	年度中途の入所が困難な3歳未満児の保育ニーズに対応するため、小規模保育事業を実施する幼稚園、保育所等に対し、運営費を助成します。			
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		803,900 千円	千円	
		目安の金額	課長 0.20 人	(人件費備考)
		9,300 千円	係長 0.40 人	
			職員 0.40 人	

事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	本市の保育所の入所定員については、年度当初の受け入れ態勢はおおむね整っていますが、年度の後半にかけて待機児童が発生している状況にあります。特に3歳未満児が多く、年度中途からは待機児童の8割を占めており、待機児童解消に向けた教育・保育の提供が必要です。	見直し内容 「北九州市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、計画的に教育・保育を提供することで、年度中途の入所が困難な3歳未満児の保育ニーズに対応します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 待機児童数(0~2歳児)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 他の施設と併せて実施し、本市の待機児童の8割を占める、3歳未満児の保育施設入所定員の拡大を図ることにより、年間を通じて待機児童が解消された状態。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 年度当初(4月)の待機児童数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 0 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。今後もこれを維持していくため、成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)		0 人		
	年度中途(10月)の待機児童数	220 人	前年度比減		
	一部地区では、年度中途から待機児童が生じています。保育需要は、今後も増加すると考えており、最終目標は年間を通じた待機児童の解消を成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 小規模保育事業を推進し、本市の待機児童の8割を占める、3歳未満児入所定員の拡大を図ります。小規模保育を運営する法人等に対しては、運営費の一部を助成します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 小規模保育事業実施箇所数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 -	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	小規模保育事業を推進することで、年間を通じて待機児童の解消を目指します。		26 施設		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	子ども家庭局				
		担当課	幼稚園・こども園課				
事業名 一時預かり事業(幼稚園型)		課長名	坂田				
		施策番号 I - 1 - (1) - ②					
事業概要 子ども・子育て支援新制度により実施する一時預かり事業において、保護者のニーズに応じて教育時間の終了後等に預かり保育を実施する私立幼稚園を支援します。		<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
		(人件費備考)					
コスト	事業費	27年度当初予算額 146,700 千円	27年度執行額 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 4,400 千円	課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 幼稚園で実施する一時預かり事業(幼稚園型)により、保育の量の拡充を図り、待機児童の解消を目指します。	見直し内容	平成27年度 新規事業

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 一時預かり事業を実施する私立幼稚園	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 幼稚園の教育時間の終了後等に預かり保育を希望する保護者のニーズに対応した状態。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	幼稚園に対する満足度 (教育・保育の内容)	91.3%	平成25年度(91.3%) 比向上		
	最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、幼稚園に対する満足度を指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(91.3%)比向上 (平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 一時預かり事業を実施する私立幼稚園に対して、運営費を補助します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	事業を実施する施設数	-	49 箇所		
	一時預かり事業の実施を推進することで、幼稚園に対する満足度の向上を図ることを指標としました。	—			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	子ども家庭局
							担当課	保育課
事業名 特別保育事業補助							課長名	黒岩
							施策番号	
事業概要 保護者の就労形態の多様化等に対応するため、保育所の保育時間を午後7時もしくは8時まで延長する「延長保育」の充実を図ります。また、保護者のパート就労や冠婚葬祭、および育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育する「一時保育」の充実を図ります。さらに、保育所の通常保育に加え、延長保育や一時保育においても、統合保育の可能な障害のある児童の受け入れを行う「障害児保育」の充実を図ります。							事業手法	
							<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
		768,115 千円	千円			3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	成果指標として設定した「保育所に対する満足度(教育・保育の内容)」は、高い割合で推移していますが、保護者の就労形態の多様化等に伴い、子育て環境は変化しています。保育所特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズに合わせた、受け入れ態勢の整備が必要です。	見直し内容 成果指標である「保育所に対する満足度(教育・保育の内容)」の更なる向上を目指し、特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズの変化などの状況把握に努め、ニーズに合った利用可能施設数を拡充していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 児童および保護者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 保育所の特別保育事業の拡充および質の向上を図ることで、安全安心な子育て環境を整備し、安心して働き、子育てできる社会を実現します。また、障害のある児童を含め、子どもの福祉向上を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	保育所に対する満足度(教育・保育の内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みに対する成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)平成25年度(89.6%)比向上 (平成31年度)	89.6 %	平成25年度(89.6%)比向上		

【Check】評価(分析)					
活動計画	引き続き、延長保育実施施設数および一時保育実施施設数を増やすことで、活動指標で定めた目標数を達成します。 障害児保育については、既に統合保育が可能な障害児の受け入れを全保育所で取り組むと同時に、直営保育所においては、統合保育が可能な重度障害児の受け入れも行っていきます。また、延長保育および一時保育における、障害児保育の実施率の向上にも努めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	延長保育を実施する保育所の施設数 保育所の新設や公立民営化に伴う延長保育の実施、既存保育所の新規実施により、延長保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながることから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」に基づく)	148 所	153 所		
	一時保育を実施する保育所の施設数 保育所の新設や改築により、一時保育室を設置するなどして、一時保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながることから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」に基づく)	67 所	77 所		

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	保育課
		課長名	黒岩
事業名	病児・病後児保育事業	施策番号	
		I - 1 - (1) - ②	
事業概要	保護者の勤務の都合、疾病、事故、出産及び冠婚葬祭など、やむをえない事由により家庭での保育が困難な病氣中、病氣回復期にある児童を医療機関併設型の施設において保育し、保護者の子育てと就労の両立を支援します。	■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()	
		(人件費備考) 課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.10 人	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	119,966 千円	千円	人件費
		目安の金額	2,900 千円

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成28年度の新設(1箇所)を目標に、利用ニーズの高い地域での開設に向けて医療機関へ働きかけを行います。 また、認知度上昇のため、効果的なPRを実施します。
平成26年10月に1箇所開設し、市内10箇所で開催しています。平成26年度については、年度中に小倉南区でさらに1箇所の開設を目標としており、現在整備を行っています。 利用児童数は前年度に比べ増加しており、有効性は依然として高い傾向にあり、特に、利用ニーズの高い地域において、施設の新設の必要があります。 しかしながら、当該事業は、北九州市医師会の協力のもと、診療科目に小児科を掲げている医療機関を委託先としていますが、対象に限られるため実施施設の選定に時間を要することが課題です。また、利用ニーズが高いことから、本事業の認知度上昇を図るため、効果的なPRの実施が必要です。			

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 保護者の勤務等やむを得ない事由により、家庭での保育が困難な病氣中、病氣回復期にある児童の保護者 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 病児・病後児保育室を利用することで、子育てと就労の両立が可能な状態を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 保育所に対する満足度(教育・保育の内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は「元気発進! 子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)平成25年度(89.6%)比向上 (平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 89.6 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			平成25年度(89.6%)比向上		

活動計画	施設数については現状維持とし、利用ニーズをふまえて平成28年度以降の実施施設の検討を行います。 また、併設の医療機関に加え、各保育所や幼稚園など、対象の保護者が利用する施設でパンフレットの配布やポスターを掲示します。さらに、市ホームページや市政だより等情報誌へ掲載するなど、効果的なPRにより、事業の認知度上昇を図り、対象者の利用促進につなげます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 病児・病後児保育事業を実施している施設の箇所数 病児・病後児保育については、保護者ニーズは依然として高い傾向にあり、特に、ニーズの高い地域においては、施設の新設が必要であることから、活動指標としました。 病児・病後児保育事業の効果的なPR 関係各施設へパンフレットやポスターの配布、ホームページ上での掲載、市政だより等情報誌への掲載など、効果的なPRを行うことが、病児・病後児保育事業の周知につながることから、活動指標として掲げました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 9 箇所	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			11 箇所		
			効果的なPRの実施		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	子ども家庭局
						担当課	保育課
事業名 保育サービスコンシェルジュ事業						課長名	黒岩
						施策番号	
事業概要 保育所、幼稚園や地域の子育て支援の事業等の利用について、情報の収集と提供を行うとともに、利用にあたり、子どもや保護者からの相談に応じるため、各区役所に1名ずつ保育サービスコンシェルジュを配置します。						<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
						(事業費備考)	
コスト	事業費	27年度当初予算額 20,200 千円	27年度執行額 千円	目安の金額 2,400 千円	課長 0.10 人 係長 0.05 人 職員 0.10 人		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 市民ニーズに応じたきめ細やかな相談対応、適切な情報提供・助言を行い、需給のミスマッチによる待機児童の解消を図る必要があります。	見直し内容	保育サービスを必要とする市民のニーズに、できるだけきめ細やかに対応できるように引き続き実施していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	対象(誰を、何を) 就学前の子ども及びその保護者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 就学前の子ども及びその保護者の身近な場所において、保育所、幼稚園などの教育・保育施設や地域の子育て支援の事業等の利用について情報集約と提供を行うとともに、利用にあたって子どもや保護者からの相談に応じます。また、必要な情報提供・助言をし、関係機関との連絡調整等も行うことで、保育所待機児童の解消を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由		
	年度当初(4月)の待機児童数	0 人	0 人				
	現在、年度当初の入所児童数は定員を下回っており、市全体では概ね保育需要に対応できる状態にあります。今後もこれを維持していくため、成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成 30・31年度)						
	年度中途(10月)の待機児童数	220 人	前年度比減少				
	一部地区では、年度中途から待機児童が生じています。保育需要は、今後も増加すると考えており、最終目標は年間を通じた待機児童の解消を成果指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)						

活動計画	どうやって目的を達成するか 各区に1名ずつ保育サービスコンシェルジュを配置し、保育所、幼稚園などの教育・保育施設や地域の子育て支援の事業等の利用について情報の集約や提供を行うとともに、利用にあたって子どもや保護者からの相談に応じます。また、必要な情報提供・助言をし、関係機関との連絡調整等も行うことで、保育所待機児童の解消を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由		
	相談対応件数	-	前年度比向上				
	子育て支援関連施設の利用について、子どもや保護者からの相談に応じ、それぞれに必要な施設等の情報提供をすることが、それぞれの施設への円滑な入所に繋がります。						
	保育所等未入所児童に対する情報提供数	-	前年度比向上				
	保育所等入所希望者のうち、保育所等未入所児童に対する個々のニーズや状況にマッチした施設等の情報を提供することで、よりきめ細かい対応を行います。						

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局	
		担当課	幼稚園・子ども園課・保育課	
		課長名	坂田・黒岩・白井	
事業名	保育士等の確保	施策番号		
		I - 1 - (1) - ②		
事業概要	保育士就職支援事業(保育士資格取得見込の学生等を対象に就職説明会を実施)、保育士資格活用研修事業(保育士の資格を持っていて、現在、保育士の職に就いていない人(潜在保育士)を対象とした研修を実施)、保育士・保育所支援センター開設等事業等(保育士の就職支援や相談等による離職防止)、幼稚園教諭免許状を有する者の保育士資格取得支援等事業(幼稚園教諭の保育士資格取得支援や幼稚園への就職支援等)により、待機児童の解消を図るため、保育士等の人材確保に取り組みます。	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()		
		コスト	27年度当初予算額	27年度執行額
	13,800 千円	千円	人件費	目安の金額
				課長 0.40 人 係長 0.60 人 職員 0.40 人
				(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 待機児童解消のためには、保育士等の人材確保が大きな課題となっています。保育士資格活用研修や保育士就職支援説明会等の事業に加え、幼稚園教諭の保育士資格取得支援や保育士・保育所支援センターの開設などにより保育士等の人材確保を図ります。	見直し内容	既存の事業に加え、保育所等への就職を希望する求職者への就職支援や現役保育士等からの相談を受けることにより離職防止につなげ、より効果的な保育士確保に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 保育士資格取得見込の学生等や潜在保育士、現役保育士、保育士資格を持たない私立幼稚園教諭等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 保育士資格取得見込の学生等を対象とした保育士就職支援事業や潜在保育士対象の保育士資格研修事業、保育士資格を持たない幼稚園教諭の保育士資格取得や就職説明会の支援等により保育士等の人材が確保され、年間を通じて待機児童が解消した状態。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	年度中途(10月)の待機児童数	220 人	前年度比減		
	最終目標は、「元気発進! 子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、待機児童数を解消することを目標として指標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 0人 (平成30・31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか ・保育施設等と相談するためのブースを設置し、保育士資格取得見込の学生等を対象とした就職支援説明会を開催します。 ・潜在保育士等を対象とした保育士資格活用研修において講義や実技、見学実習等を実施します。 ・保育士・保育所支援センターを設置し、潜在保育士の就職支援や現役保育士の離職防止に努めます。 ・幼稚園教諭の保育士資格取得や私立幼稚園の就職説明会に係る費用を支援します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	保育所等での就職成立者数	—	100 人		
	保育所等へ就職した人数、また、現役の保育士等の離職防止につながった人数を増加させることで、保育士等の人材を確保します。				
	就職説明会に参加する施設数	—	150 所		
保育士等の人材を確保するために、就職説明会に参加する施設数を増やします。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	子ども家庭局
						担当課	子育て支援課
事業名						課長名	西尾
						施策番号	
事業概要						事業手法	
						<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.01 人
		992,900 千円	千円		3,615 千円	係長	0.05 人
						職員	0.40 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 届出時の無料受診券交付により早期の妊娠届出者は増加傾向にあり、妊婦の健康管理につながっています。今後も健診の公費助成を継続する必要があります。 また、幼児健診の受診勧奨ハガキの送付や各乳幼児教室などで健診受診について勧奨も引き続き実施する必要があります。	見直し内容	今後も母子の健康支援のために必要な母子の公費助成を継続しつつ、健診が有効に活用されるよう、引き続き幼児健診のハガキ勧奨も含めた受診勧奨を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 妊産婦や乳幼児	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 当該事業を展開することにより、妊娠期から育児中にわたる母と子の健康づくり、育児不安などに対する専門的支援を柱として、母子の健康を保持増進させることを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	93.4 %	前年度比増加		
	母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、妊娠早期から妊婦健診を受診することが必要であるため、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100% (平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 妊婦健診の公費助成を14回行うとともに、受診勧奨を行うことで、受診率の向上を図ります。また、様々な機会を通じて妊婦健診を周知し、11週までの妊娠届出者数を増加させます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	妊婦健診受診率	95.5 %	対前年比増加		
	母体の健康を保持し、安心して妊娠・出産するため、妊婦健診を受診することは必要であるため、活動指標として設定しました。				
	3歳児健診受診率	91.8 %	対前年比増加		
乳幼児の健康を保持し、健全な育成を促すために、乳幼児健診を受診することは必要であるため、活動指標として設定しました。					

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	宮崎
事業名	乳幼児等医療費支給事業		施策番号
			I - 1 - (1) - ③
事業概要	乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、保険診療にかかる医療費の自己負担額を助成します。		事業手法
			<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	2,587,200 千円	千円	目安の金額
		課長	0.20 人
		係長	0.40 人
		職員	0.80 人
		(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	制度を維持し、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えられることから、施策の効果は高いと考えます。今後は、持続可能で安定的な制度とするため、財源確保の問題を含め、制度のあり方を研究する必要があります。	見直し内容
			持続可能で安定的な制度とするため、財源確保の問題を含め、制度のあり方を検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	成果の状況評価理由
	乳幼児等及びその保護者	乳幼児等の保険診療による医療費の自己負担額を助成し、乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	44.7 %	平成25年度(44.7%) 比減少		
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.7%)比減少 (平成31年度)				
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	51.7 %	平成25年度(51.7%) 比減少		
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(51.7%)比減少 (平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	現行制度を継続して実施するとともに、制度のあり方を研究します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	医療費支給制度の維持	-	-		
	制度を維持し、子育てにかかる経済的負担を軽減することで、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、活動指標として設定しました。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	西尾
事業名	すくすく子育て支援事業	施策番号	
		I - 1 - (1) - ③	
事業概要	母子健康手帳の交付、妊産婦乳幼児なんでも相談、母親学級、両親学級、育児学級等の母子保健教室、乳幼児発達相談指導「わいわい子育て相談」、乳幼児健診未受診者フォロー事業(児童虐待予防事業)、その他母子保健に関する事業を実施します。	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
		()	
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	26,623 千円	千円	人件費
		目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.40 人
		6,150 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	子育て支援の分野については、母親学級や育児教室など知識提供型ものは医療機関をはじめ他機関が開催する事業も増えているため、地域の社会資源状況を把握のうえ、内容や量について検討していく必要があります。	見直し内容 子育て支援のために有効な教室開催や保健指導について検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	妊産婦や乳幼児	妊娠期から育児中になつる母と子の健康づくり、育児不安などに対する専門的支援を柱として、当該事業を展開し、生涯を通じた母子保健に関する住民の健康づくりを支援することを目指します。		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25度(44.7%)比減少(平成31年度)	44.7 %	平成25度(44.7%)比減少	

活動計画	どうやって目的を達成するか	母子健康手帳交付時から、子育てに関する情報を提供し、保健師等の専門職が相談に応じ、妊娠中からの継続した支援を行います。育児不安や就学前までに発達の気になる親子を対象にした教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。乳幼児の子育てや基本的な生活習慣等に関する知識の普及を図るため、土日開催や託児を設けるなど、開催方法を検討し、参加しやすい教室を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)
	妊産婦・乳幼児なんでも相談等の実施 より多くの妊産婦やその家族に対して、妊娠・出産・育児に必要な知識の普及を図ることは重要であるため、活動指標として設定しました。	135 か所	全小学校区	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	西尾
事業名	のびのび赤ちゃん訪問事業		施策番号
			I - 1 - (1) - ③
事業概要	子育ての孤立化を防ぎ、乳児の健全な育成環境の確保を図るため、生後4か月までの乳児がいるすべての家庭を訪問することで、子育て情報の提供を行うとともに、さまざまな不安や悩みを聞き、支援が必要な家庭に対して適切な指導や支援、サービス提供に結びつけます。また、うつ状態等を早期に把握し、きめ細かに支援するため、全産婦に産後うつを早期に発見するための質問票を用いて、支援します。		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
			(人件費備考)
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	目安の金額
	45,723 千円	千円	4,115 千円
		課長	0.01 人
		係長	0.10 人
		職員	0.40 人

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	子どもの出生数は減少していますが、事業全体の訪問割合や子育て支援を必要とする家庭への保健師、助産師等の専門職による訪問数は増えています。全戸訪問を実施するには、専門職と地域支援者(主任児童委員)との協働・連携による資質の向上、人材の確保が必要です。	見直し内容 妊娠・出産・育児のための切れ目のない支援を行うため、のびのび赤ちゃん訪問に関わる専門職と地域支援者との協働・連携をはじめ、支援が必要な方へのサポートの強化について検討します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	生後4か月の乳児のいるすべての家庭	子育ての孤立化を防ぎ、乳幼児の健全な育成環境の確保を図ることを目的に、生後4か月まで乳児がいるすべての家庭を訪問し、その居宅において、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供や、親子の心身の状況及び養育環境を把握し、助言を行うとともに、養育支援が必要な家庭に対し、専門的支援を行います。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問の割合(訪問件数/出生数) 全戸家庭訪問により、母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進! 子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(88.9%)比増加(平成31年度)	88.9 %	平成25年度(88.9%) 比増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等でその居宅において面接して情報を提供します。また訪問により、養育支援の必要な家庭を把握し支援に繋がります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問の割合(訪問件数/出生数) 全戸家庭訪問により、母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標として掲げました。	88.9 %	平成25年度(88.9%) % 比増加		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	総務企画課
		課長名	吉峯
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ④	
事業名	子育てに関する情報提供の充実・PR		
事業概要	子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるよう、情報誌の内容や、情報提供方法の充実を図ることにより、必要とされる子育てに関する情報が、市民に届く仕組みを構築します。また、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「子ども家庭レポート」を発行し、幅広く市民に周知することにより、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		4,017 千円	千円
		(事業費備考)	人件費
		目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.40 人
		6,150 千円	(人件費備考)

事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	子育て中の人が必要とする情報がタイムリーに入手できるよう、情報提供のあり方について引き続き見直しを行うとともに、内容を充実させる必要があります。	見直し内容
			「こそだて情報」の掲載内容及び広告ページ拡大を検討します。また、ホームページ「子育てマップ北九州」の掲載内容を見直し、経済的・効率的な情報提供に努めます。子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるよう、ホームページ「子育てマップ北九州」や「子育て情報メール」、情報誌「北九州市こそだて情報」の内容、情報提供の方法の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	子育て中の保護者 市民	安心して子どもを産み育てることができるように、ホームページ、情報誌の内容、情報提供方法の充実を努めます。子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できる仕組みを構築し、子育ての不安や悩みの軽減を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気進進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.7%)比減少(平成31年度)	44.7 %	平成25年度(44.7%) 比減少		
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気進進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(51.7%)比減少(平成31年度)	51.7 %	平成25年度(51.7%) 比減少		

活動計画	どうやって目的を達成するか	ホームページ「子育てマップ北九州」での情報提供を行い、平成27年9月には子育て情報誌「こそだて情報」を作成・発行します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	子育てマップのアクセス件数	636,770 件	前年度比 増加		
	より多くの市民に、必要とされる子育てに関する情報が届いているかを図る活動指標として設定します。				
	「こそだて情報」の発行	発行	発行		
	「こそだて情報」を発行することが、必要とされる子育てに関する情報を提供することにつながるため、活動指標として掲げました。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	宮崎
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ④	
事業名	親子ふれあいルーム運営事業		
事業概要	乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安を軽減するため、親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを既存の公共施設を活用しながら、区役所や児童館などで運営します。		
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	33,037 千円	千円	
	目安の金額	課長	0.10 人
	7,275 千円	係長	0.35 人
		職員	0.35 人
		(人件費備考)	

事業手法	<input type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
	<input checked="" type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他	
	()	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 親子ふれあいルームの運営については、公募により選考を行い、子育て支援活動の実績のある団体等へ委託し、民間活用を行っています。 親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修をし、事業内容についての検討を行う必要があります。	見直し内容	引き続き、ニーズにあった研修を実施することで、質の向上を図ったり、連絡会議を開催し情報交換を行うことで、各ルーム間の連携や活動の充実を目指していきます。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と連携し、ネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組んでいきます。加えて、利用者の利便性向上等のため、利用日の拡大や相談対応の充実など機能強化を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	乳幼児とその保護者	親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを既存の公共施設を活用しながら区役所や児童館などで運営し、乳幼児を持つ保護者の子育てに対する不安の軽減を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合(就学前児童の保護者) 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.3%)比減少(平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 44.3 %	27年度目標 平成25年度(44.3%) 比減少	27年度実績(達成率) 	成果の状況評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.7%)比減少(平成31年度)	44.7 %	平成25年度(44.7%) 比減少		

活動計画	どうやって目的を達成するか 区役所等7か所・児童館10か所での親子ふれあいルームの運営を実施します。 親子ふれあいルームの利用促進を図るため、情報発信(PRチラシ作成、配布等)を実施します。 親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 親子ふれあいルーム利用者数(保護者数)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 26,571 人	27年度目標 単年度の目標設定なし	27年度実績(達成率) 	活動の状況評価理由
	親子ふれあいルームを利用することで、子育ての不安や悩みを軽減できると考えられるため、利用者数を活動指標として掲げました。 市民センター等との情報交換実施件数 市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と積極的に連携しネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組むため、平成25年度から情報交換を実施した件数を活動指標として掲げました。	197 件	168 件		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局					
		担当課	子育て支援課					
		課長名	西尾					
事業名	子ども・家庭相談コーナー運営事業		施策番号					
			I - 1 - (1) - ④					
事業概要	各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談をひとつの窓口で受け、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげています。		事業手法					
			<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.05 人
		87,899 千円	千円			6,075 千円	係長	0.10 人
							職員	0.60 人
								(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 子どもと家庭をとりまく環境は変化しており、その相談は多様化・複雑化し、増加傾向にあります。関係機関との連携や適切な支援を行うため、相談員の資質の向上を図る必要があります。	見直し内容 相談員を対象に年間を通じて計画的に行っている初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 子どもや家庭等の悩みや不安を持つ相談者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 「子ども・家庭相談コーナー」で、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.7%)比減少 (平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 44.7 %	27年度目標 平成25年度(44.7%) 比減少	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(51.7%)比減少 (平成31年度)	51.7 %	平成25年度(51.7%) 比減少		

活動計画	どうやって目的を達成するか 子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 相談件数 各区の「子ども・家庭相談コーナー」において、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 76,801 件	27年度目標 -	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局					
		担当課	保育課					
		課長名	白井					
事業名	子育て支援総合コーディネーター事業		施策番号					
			I - 1 - (1) - ④					
事業概要	「子育て支援サロン“びあちえーれ”」に子育て支援総合コーディネーターを配置し、面接、電話やメールによる子育てに関する相談の対応を行い、必要な関係機関との連携、調整等の支援を行います。 また、大学教授や小児科医、保育経験者等を講師に招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催や絵本の貸出を行い、子育て支援の充実を図っています。		事業手法					
			<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()					
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.05 人
		14,318 千円	千円			2,575 千円	係長	0.20 人
							職員	0.00 人
							(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題 子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談や関係機関との連絡・調整を行っています。しかし、認知度が低いため、子育て支援サロン“びあちえーれ”の周知を広め、子育ての不安解消につなげていく必要があります。	見直し内容	子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談に応じ、利用者に必要な関係機関との連携、調整を行います。事業費は維持しながら、子育て支援サロン“びあちえーれ”の認知度を上げていくため、他の子育て支援施設と連携し、年10回開催している育児講座等の周知に努めます。
----	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子育て中の保護者	子育てに悩む保護者の思いを傾聴することで、不安をとりのぞき、子どもの育ちを支えていきます。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発達！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.7%)比減少 (平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 44.7 %	27年度目標 平成25年度(44.7%) 比減少	27年度実績(達成率) 成果の状況 評価理由
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発達！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(51.7%)比減少 (平成31年度)	51.7 %	平成25年度(51.7%) 比減少	

活動計画	どうやって目的を達成するか 市において、北九州市保育所連盟と委託契約を締結し、保育士等により構成された子育て支援コーディネーター3名を配置して子育てに関する相談への対応や各関係機関との連携、コーディネート業務等を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) “びあちえーれ”の相談件数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 2,149 件	27年度目標 前年度比増
	子育ての悩みや不安を解消するため、子育て家庭の相談等に応じることが必要なことから、活動指標としました。 育児講座の実施回数 大学教授や小児科医、保育経験者等を講師に招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催を受講することで、子育ての悩みや不安の解消の一助につながると考え、活動指標にしました。	10 回	10 回

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点
-----------	---

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要						担当局	子ども家庭局
						担当課	子育て支援課
事業名 母子・父子福祉センター運営事業						課長名	西尾
						施策番号	
事業概要 「母子・父子福祉センター」は、ひとり親家庭や寡婦の生活上の悩みや相談を受けたり、仕事のために必要な知識や技能を身につけるための講座等を無料で行っています。その他各種研修会や催し等を行い、ひとり親家庭等の生活の安定、福祉の向上を目指しています。						事業手法	
						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.02 人 係長 0.05 人 職員 0.10 人
		41,297 千円	千円			1,480 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	就業支援講習会は、講座の内容等を見直すことにより、前年度より増加しました。また、キャリアカウンセラーによる自立・就業支援の結果、母子自立支援プログラム策定件数とそれによる就職者は、ともに前年度より増加しました。センターの利用者数は、順調に増えていますが、ひとり親の生活の安定のため、さらに受講者を増やす必要があります。	見直し内容 事業費は現状どおりですが、講座の変更、期間、時期、時間帯など講座内容の見直しを図り、更なる受講生の増加を目指し、ひとり親の就職につなげます。また、様々な機会を通じて母子福祉センターをPRし認知度を上げるよう努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) ひとり親家庭の親と寡婦	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 「母子・父子福祉センター」において、各種相談事業、自立促進のための各種講座や就職相談会などを実施し、ひとり親家庭等の総合的な福祉の向上を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	母子・父子福祉センターの延べ利用者数 母子・父子福祉センターは、相談事業や就業支援事業等を行い、母子福祉を総合的に推進する拠点施設であることから、その利用者数を成果指標としました。採集目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)平成25年度(10,011人)比増加(平成31年度)	10,011 人	平成25年度(10,011人)比増加		
ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子・父子福祉センター) 自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)平成25年度(62.1%)比減少(平成31年度)	62.1 %	平成25年度(62.1%)比減少			

活動計画	どうやって目的を達成するか ひとり親家庭等の様々な相談に応じるとともに、生活指導や技能習得のための講座の開催、就職の援助等を行い、生活の安定や福祉の向上に努めます。また、就業支援の充実を図るため、母子・父子福祉センターの就業支援員に専門職(キャリアカウンセラー)を配置して行なっている自立支援プログラム策定事業をPRし、事業による就業者の増加を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	母子・父子福祉センターにおける講座等の受講者延べ人数 ひとり親家庭が自立し、安定した生活を営むためには、就業により収入を安定的に確保する必要があります。よって、この就業を支援する施策の利用数の増加を指標として掲げました。	4,871 人	前年度比増加		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	子ども家庭局
							担当課	保育課
事業名 親子通園事業							課長名	重谷
							施策番号	
事業概要 幼児期の子どもの発達や育児に関して、不安や孤独感を抱えている保護者にとっては、思いを共有し、気兼ねなく安心して親子で過ごせる場所を提供する等、伴走型の支援が必要です。あそびや体験等を通じて、子育ての楽しさや成長の喜びを保護者が感じられるよう保育所での継続した支援、相談を行います。							事業手法	
							<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考)
		3,642 千円	千円			4,650 千円	係長 0.20 人 職員 0.20 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	通園利用者へ実施したアンケートの満足度は高く、保育所、幼稚園への移行支援も進んでいます。しかし、距離的な問題のため利用できない市民ニーズに対し、全市民的なバランスを考えての実施保育所の配置が必要と思われます。	見直し内容 利用者のニーズに応じて、きめ細かい支援、相談ができるよう関係機関との連携をすすめながら、保育内容の充実、市民にとって利用しやすい体制づくりに努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	発達の気になる子どもと保護者	直営保育所で運営する「親子通園クラス」において、保育所での遊びや体験、相談等継続した支援、関係機関等との連携による児童の移行支援など、子育ての楽しさや成長の喜びを保護者が感じられるような状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 保育所に対する満足度(教育・保育の内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進! 子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(89.6%)比向上(平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 89.6 %	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			平成25年度(89.6%)比向上		

活動計画	どうやって目的を達成するか 八幡西区の黒崎保育所、小倉北区の東篠崎保育所において、親子通園クラスを運営し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、保育所での継続した支援、相談を行うことにより、発達が気になる児童の健全な育成や保護者の育児不安解消を図ります。また、遊びや相談を通して、直営保育所、保健、医療、福祉、教育の関係機関等と連携しながら、児童にとって適切な保育所、幼稚園、療育機関などへの移行支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 親子通園クラスの実利用組数 保育の質の向上、実利用組数を増加させることで、親子通園事業の有効性などを理解してもらうことにつながるから活動指標として掲げました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 37 組	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			前年度比増		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	西尾
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ⑤	
事業名	児童養護施設等措置費		
	児童養護施設・乳児院・情緒障害児短期治療施設・自立支援施設・自立援助ホーム・ファミリーホーム・里親において、保護を要する児童に係る必要な経費を負担します。その費用の中で、①児童養護施設・乳児院の各施設にて、家庭的な環境の中で職員との個別的な関係を重視したケアを提供するため、小規模なグループ(原則6~8名)または地域小規模児童養護施設(6名)によるケア、②施設を退所し就職する児童に対し、相談その他日常生活上の援助及び生活指導の支援を行い、社会的自立の促進に寄与する自立援助ホームの運営、③家庭的養護を促進するため、養育者の住宅を利用し、基本的な生活習慣を確立するとともに児童の自立を支援するファミリーホームを普及・推進、④児童養護施設等入所児童に温かい家庭生活を体験させ、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進する家庭生活体験事業を実施します。		
事業概要	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	(人件費備考) 課長 0.30 人 係長 0.30 人 職員 0.85 人		
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
	1,847,900 千円	千円	目安の金額 12,825 千円

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	これまで実施してきた事業で、児童に対し、家庭的養護の効果や自立等一定の効果が上がっています。今後も、社会的養護が必要な子どもがそれぞれの子どもにあった生活環境で健やかにはぐくまれ、自立できるよう児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立等の支援を行っていく必要があります。	見直し内容 児童の精神の安定、自立のために、これらの事業は継続して行う必要があります。児童一人ひとりに合った環境を模索しながら、児童にとってよりよい養育環境を提供していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況		
	措置(委託)児童の生活環境	児童養護施設等における各種事業を推進し、社会的養護が必要な子どもが、退所後にそれぞれの子どもにあった生活環境で自立できる状態を目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	地域小規模児童養護施設・小規模グループケアの実施箇所数 児童養護施設において、家庭的養護を推進するための小規模グループケアや地域小規模児童養護施設の新設を進めることは子どもたちへの支援をさらに充実させることから、成果指標としました。 (最終目標と目標年度) 23か所 (平成31年度)	11 か所	単年度の目標設定なし		

活動計画	どうやって目的を達成するか	社会的養護が必要な子どもが、それぞれの子どもにあった生活環境で、健やかにはぐくまれ、自立できるよう、児童養護施設等における各種事業を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	自立援助ホームからの就職等自立児童数 就職もしくは大学進学を進めるとともに、自立資金の貯蓄や正しい生活習慣を身につけさせるなど、自立に向けた準備を整えて卒園させる必要があります。しかし、児童の状況に応じた支援であることから、目標の設定は困難です。	7 人	-		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局	
		担当課	子ども総合センター	
		課長名	山田	
事業概要		施策番号		
事業名	児童虐待防止(子どもの人権擁護)推進事業		I - 1 - (1) - ⑤	
事業概要	児童虐待の早期発見及び被虐待児童の迅速かつ適切な保護を行うため、関係機関との連携強化を図り、児童虐待の防止等のために必要な体制を整備するとともに、関係機関等の職員の研修及び広報活動を行います。		事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		18,061 千円	千円	
			目安の金額	課長 0.80 人
			33,200 千円	係長 0.90 人
				職員 2.00 人
				(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 関係機関職員を対象にした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民にも広く周知を図った「児童虐待問題連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は増加していることから、児童虐待を重篤化させないためには、関係機関との連携を密に図ることに加え、地域住民等への周知啓発が必要です。	見直し内容	関係機関職員、市民等を対象とした研修や講座、出前講演等に積極的に取り組むとともに、児童虐待の法的な部分に対抗できるよう、弁護士等の有識者を活用した関係職員の能力向上策にも努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 児童虐待事案	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 児童虐待に関する啓発や研修を積極的に行うとともに、児童虐待の早期発見、早期対応に努め、事案の減少を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 児童虐待対応件数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標にあげました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(380人)比減少(平成31年度)	380 件	平成25年度(380人)比減少		

活動計画	どうやって目的を達成するか 児童虐待相談対応体制の強化を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 児童虐待問題連続講座の参加者数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数が増加したことから、参加者数を指標として掲げました。	304 人	前年度比増加		
	児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数	177 人	-		
	児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	西尾
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ⑥	
事業名	ほっと子育てふれあい事業		
事業概要	仕事の都合や子どもの軽い病気の時に、ボランティア組織「ほっと子育てふれあいセンター」の会員間で子どもの預かりや送迎など、子育て支援サービスの充実を図ります。		
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	27年度当初予算額 15,326 千円	27年度執行額 千円
	人件費	目安の金額 1,865 千円	課長 0.01 人 係長 0.10 人 職員 0.10 人 (人件費備考)

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	依頼会員や提供会員等の会員数も増加傾向にあり、事故も発生していないことから、順調な成果が出ているといえます。今後も、安心して子育てと仕事を両立できるような環境づくりに資するため、会員の確保や研修会等の実施等を引き続き行う必要があります。	見直し内容	従来の研修に加え、ヒヤリハットのケーススタディや事故が発生した場合の対処法(行政との連携)等の事例研修を充実させ、安全で質の高いサービスの提供に努めます。 また、市政だよりでの広報のほか、区役所へのポスターの掲示、市の主催(共催)する講演会でのパンフレットの配布等を行い、提供会員数のさらなる増加を図ります。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市民 地域で子育ての援助を行いたい者と子育ての援助を受けたい者を組織化し、相互に援助できるよう支援することにより、安心して子育てと仕事を両立できるような状態を目指します。
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合(就学前児童の保護者) 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.3%)比増加(平成31年度)
上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標 27年度実績(達成率) 成果の状況評価理由 44.3 % 平成25年度(44.3%)比増加

活動計画	どうやって目的を達成するか 定期的な会員募集を行い、会員獲得に努めています。また、提供会員の基本研修やステップアップ研修、ヒヤリハット、事故対応等の事例研修を充実させることで、会員の資質の向上を図っています。また、会員相互の交流会活動を通じて、会員間のつながりを強め、地域社会全体で子育てを支える意識の向上を図っています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 提供(両方)会員の確保 2,745 人 前年度比増加 援助活動の需要に対応するためには、提供会員の確保が必要ことから、活動指標に設定しました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標 27年度実績(達成率) 活動の状況評価理由 18 回 18 回
	研修会の実施 安全で質の高いサービスの提供のためには、会員に対し子どもの心身の健康や事故の対応などの研修を行う必要があるため、活動指標に設定しました。		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	宮崎
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ⑥	
事業名	みんなの子育て・親育ち支援事業		
事業概要	未就学児の親同士の交流や子どもの遊び、体験活動、地域との交流、子育てについての勉強会など、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援します。特に、先進的な育児サークルの活動については、その内容を広くPRするなどの支援を行います。また、子ども連れでも自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援します。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 5,477 千円	27年度執行額 千円
	人件費	目安の金額 6,400 千円	
		課長	0.10 人
		係長	0.30 人
		職員	0.30 人
		(事業費備考)	
		(人件費備考)	

- 事業手法
- 直営
 - 補助金
 - 全部委託
 - 負担金
 - 一部委託
 - 指定管理
 - その他

【Action】改善

課題	平成25年度は計画どおりに活動し、申請団体数も前年度より増加しており、本事業が「子育てに関わる団体」のニーズに沿ったものであると判断されますが、成果の状況は、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合は減少しています。今後も地域の子育て団体の自主的活動を活発化し継続していく必要があります。	見直し内容	引き続き、育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」に活動支援として、団体へ活動経費を補助します。また、身近な地域での交流の場(フリースペース)や育児サークルについて調査を行い、その情報を発信し、利用促進を図ります。さらに、地域づくりや子育て支援に関して豊富な経験・実績を有する地域支援アドバイザーを各地域に派遣し、活動がより活発化するよう団体間のつなぎ役を担い、子育てネットワークの構築を図ります。
----	--	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子育てに係る団体等	育児サークルや子ども連れでも自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援していくことで、未就学児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行える環境づくりを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合(就学前児童の保護者) 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.3%)比増加(平成31年度)	44.3 %	平成25年度(44.3%) 比増加		
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.7%)比減少(平成31年度)	44.7 %	平成25年度(44.7%) 比減少		

活動計画	どうやって目的を達成するか	育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」に活動経費を補助します。また、身近な地域での交流の場(フリースペース)や育児サークルについて調査を行い、その情報を発信し、利用の促進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:25年度実績 下段:26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	子育てに関わる団体への補助件数 育児サークルや子育て支援者グループなどの「子育てに関わる団体」への財政的支援を行い、育児サークルの自主的活動や地域で行われる子育て支援活動を促し、子育ての不安や悩みを軽減する環境づくりを推進するため、補助件数を活動指標として掲げました。	100 件	120 件		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	総務企画課
		課長名	吉峯
		施策番号	
		I - 1 - (1) - ⑥	
事業名	赤ちゃんの駅登録事業		
事業概要	官民が協力して、乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やおむつ替えができる施設を「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て中の親が安心して外出できる環境づくりを行います。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 1,300 千円	27年度執行額 千円
		(事業費備考)	
	人件費	目安の金額 4,400 千円	課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人
		(人件費備考)	

事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	「すくすく子育てフェスタ」会場でPRチラシと啓発グッズの配布、臨時赤ちゃんの駅を設置するなど、「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けたPRを効果的に実施できており、大変順調です。引き続き、登録施設数増や利用促進の取り組みが必要です。
			平成27年度においても、登録施設数の増加に向けた協力依頼を行うとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進に向けたPR活動を行い、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	乳幼児を持つ保護者 民間事業者 市民	安心して子どもを生み育てることができるように、乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やおむつ替えができる施設を、「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。また、本事業については、公共施設だけではなく、民間事業者の協力も得るなど、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合(就学前児童の保護者) 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(44.3%)比増加(平成31年度)	44.3 %	平成25年度(44.3%) 比増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか 「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向け、企業等へ協力依頼を行うとともに、子育て支援施設等でのイベント時にチラシ等を活用し、PRを行います。登録施設には、利用者が気軽に立ち寄れるよう、目印となるステッカー等を目立つ場所に掲示します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	「赤ちゃんの駅」登録施設数 「赤ちゃんの駅」登録施設数が増加することが、乳幼児を持つ保護者の利便性の向上につながるため、活動指標に掲げました。	353 施設	369 施設		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	幼稚園・こども園課
事業概要		課長名	坂田
		施策番号	
事業名	幼児教育の振興・子育て支援機能の充実		I - 1 - (2) - ①
事業概要	本市の幼児教育の振興と子育て支援機能の強化を図るため、私立幼稚園での幼児教育環境の整備や預かり保育、子育て相談、体験保育などの子育て支援機能の充実に対する助成を行います。		<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額 319,721 千円	27年度執行額 千円
		(事業費備考)	
		目安の金額 6,190 千円	課長 0.06 人 係長 0.25 人 職員 0.40 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成27年度から実施される「子ども・子育て支援新制度」も踏まえ、今後も、本市の幼児教育における私立幼稚園の役割が重要になるものと考えており、私立幼稚園への助成制度を継続し、幼児教育の振興や子育て支援機能の充実を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	私立幼稚園 保護者	私立幼稚園における幼児教育の振興、幼稚園教諭の処遇の改善、また、子育て支援機能の充実が図られた状態です。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	幼稚園に対する満足度(教育・保育の内容) 最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、幼稚園に対する教育内容の満足度向上を目的として、指標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(91.3%)比向上(平成31年度)	91.3 %	平成25年度(91.3%) 比向上		

活動計画	どうやって目的を達成するか	私立幼稚園が交付された補助金を効果的に活用することにより、幼児教育及び子育て支援の充実を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	私立幼稚園振興助成補助金の活用率の割合 幼稚園施設の設備や備品、教材等の購入などにより幼児教育環境の充実につながるため、指標としました。	100 %	100 %		
	子育て支援保育補助員助成の活用率の割合 子育て支援保育補助員を活用する幼稚園が増えることで、幼稚園の子育て機能の充実を図ります。	99 %	100 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局	
		担当課	幼稚園・こども園課	
		課長名	坂田	
事業概要		施策番号		
事業名	保育所、幼稚園、小学校の連携		I - 1 - (2) - ①	
事業概要	保育所、幼稚園の保育環境から小学校の学習環境への円滑な接続を図るため、公私、保幼小の代表者で構成する「保幼小連携推進連絡協議会」を設置し、年2回協議を行います。また、保幼小連携担当者を対象に研修会を実施します。		事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		652 千円	千円	
			7,825 千円	目安の金額 課長 0.05 人 係長 0.35 人 職員 0.50 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 保幼小連携事業を実施する施設の割合は、年々増加していますが、校区により連携の内容や頻度にばらつきが見られることから、保育所・幼稚園・小学校の連携を組織的・体系的に進める必要があります。	見直し内容	各保育所、幼稚園、小学校に設置した連携担当者名簿や保幼小連携啓発パンフレットの更なる活用を促すとともに、保幼小連携啓発研修や保育所、幼稚園、小学校への情報伝達体制の充実など、連携事業の一層の推進を図っていきます。また、研修会についても、「保幼小連携推進連絡協議会」における意見などを踏まえ、実施方法を改めて検討するなど、連携の質の向上と全市への拡大を図っていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 保育所、幼稚園、小学校の児童	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 保幼小間が連携して、保育所、幼稚園の保育環境から小学校の学習環境への円滑な接続が図られた状態です。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 幼稚園に対する満足度(教育・保育の内容)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 91.3 %	27年度目標 平成25年度(91.3%)比向上	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、幼稚園に対する教育内容の満足度向上を目的として、指標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(91.3%)比向上(平成31年度)				
	保育所に対する満足度(教育・保育の内容)	89.6 %	平成25年度(89.6%)比向上		
	最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で定めている目標のうち、幼稚園に対する教育内容の満足度向上を目的として、指標を設定しました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(89.6%)比向上(平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 研修会を開催し連携に対する意識の向上を図るとともに、関係団体の代表者で構成する連絡協議会の設置や、連携担当者名簿や保幼小連携啓発パンフレットの活用などにより連携の推進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 97 %	27年度目標 98 %	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	保幼小連携事業を実施することにより、保育環境から学習環境への円滑な接続を図りたいと考えています。そのため、保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合を指標にしました。				
	連携についての啓発研修会・講演会の参加人数	541 人	570 人		
	研修会等で啓発をし、連携の必要性についての意識を高め、連携事業の実施に結び付けたいと考えています。そのため、研修等の参加人数を指標に設定しました。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	青少年課
		課長名	東田
		施策番号	
		I - 1 - (4) - ①	
事業名	青少年ボランティアステーション推進事業		
事業概要	社会の構成員としての規範意識や他者への思いやり等の豊かな人間性を育むとともに、社会性や協調性等を身に付けることができるよう、青少年が行うボランティア活動を支援・促進します。 ・ボランティア活動の推進: 青少年が参加できるボランティアプログラムの開発及び関係機関・団体等への働きかけを行います。 ・社会参加ボランティアの実施: 関係機関と連携しながら、ボランティア活動を通じた青少年の社会的自立を支援します。 ・リーダーの養成や登録: ボランティア活動の知識や実践力を育て、活動を支援できるリーダーの養成及び登録を行います。		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		1,887 千円	千円
		(事業費備考)	目安の金額
		人件費	課長 0.10 人 係長 0.50 人 職員 0.00 人
			6,150 千円
			(人件費備考)

■ 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
<input type="checkbox"/> 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
<input type="checkbox"/> その他	

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	家庭や地域における様々な体験活動の不足が、青少年の「社会のかかわりの自覚」や「自己の確立や向上」等を阻害しているといわれています。今まで通り、ボランティア活動を通じた豊富な体験活動プログラムの提供と活動支援を進めていく必要があります。また、ボランティア活動を通して、ひきこもりや非行等の課題を抱える青少年の社会的自立を促がす取組を進めていくことも必要です。	見直し内容	中心事業の一つである「夏休みの青少年ボランティア体験」のPRや新たなプログラム開発(例: 山田緑地や響灘ピオトープ)、対象となる活動の増加を行います。また、小・中学生や高校生等を対象にした「出前授業」のPRを年度当初に行い、実施の拡充を図ります。そして、年間を通して、受け入れ施設や団体及び学校等を積極的に訪問し、ボランティア活動事後のお礼や報告を行うことで、よりよい信頼・協力関係の構築を目指します。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	青少年	青少年の健全育成に欠かすことができない様々な体験活動を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数 青少年ボランティアステーションのコーディネートにより、ボランティア活動に取り組んだ小・中学生や高校生等の延べ人数が、本事業の活性化を図る一つの指標になると考え掲げました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(6,342人)比増加(平成31年度)	6,342 人	平成25年度(6,342人)比増加		

活動計画	年間を通じて、ボランティア活動情報の提供と活動調整及び活動時の支援を行います。 7~8月は、市内の小・中学生や高校生等を対象にした「夏休みの青少年ボランティア体験」を実施します。 ボランティアという社会貢献に対する意識の醸成を重要と考え、児童や生徒を対象にした、広報・普及活動の一環として「ボランティア出前授業」を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	「ボランティア出前授業」参加児童・生徒数 規範意識や他者への思いやり等を高めることにつながるボランティア活動の意義について、市内の小・中学生やインターアクトクラブ等に所属する高校生等を対象にした「ボランティア出前授業」を実施し、広報・普及活動に取り組みます。	435 人	前年度比増加		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	青少年課
		課長名	東田
		施策番号	
		I - 1 - (4) - ①	
事業名	「ユースステーション」運営費		
事業概要	中学生・高校生を中心とした若者の活動拠点となり、社会参加準備のためのさまざまな活動を体験することができる施設として「ユースステーション」の運営を行います。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 27,648 千円	27年度執行額 千円
			(事業費備考)
		目安の金額	課長 1.00 人 係長 0.50 人 職員 1.25 人
		25,875 千円	(人件費備考)

- 事業手法**
- 直営 補助金
 - 全部委託 負担金
 - 一部委託 指定管理
 - その他
- ()

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	・利用者アンケートを行い、その結果を踏まえて、若者向け事業(講座やセミナー)の研究・開発に努めます。 ・若者による自主企画事業では、企画から運営までを指導員がサポートする中で、若者の自主性を伸ばし、社会性が養われるよう指導を行います。
	・若者向け事業では、中学生・高校生を中心とした若者が社会に出て自立するために必要と思われる力を育てる内容について、更なる研究が必要だと思われます。 ・若者による自主企画事業では、企画は若者が行っても、事業の運営はユースステーションの指導員に頼ろうとする傾向があるので、適切な指導を行う必要があります。		

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 中・高校生をはじめとする若者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 学習や体験、スポーツ・文化活動、仲間との交流等を通じて、自己を発見し、社会性や自立性を身につけることを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 青少年への社会体験活動等の機会や場の提供	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 21 件	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、青少年に豊富な社会体験活動等の機会や場を提供します。 (最終目標と目標年度) 前年度比同水準(平成31年度)	24 件			

活動計画	どうやって目的を達成するか 中・高校生などの若者による運営委員会方式の企画や、各分野のボランティアや北九州ひとみらいプレイスの関係機関等とのネットワークの活用を進めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 若者向け事業への参加者数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 914 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	関係機関等とのネットワークの活用等により、各種事業の数・質を高め、事業への参加者数の増加を図ります。	1,100 人			
	若者による自主企画事業の数	3 件	3 件		
	施設の特徴を生かした、若者による自主企画事業の増加に取り組みます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	青少年課
		課長名	東田
事業概要		施策番号	
事業名	子ども・若者応援センター「YELL」の運営		I - 1 - (4) - ①
事業概要	不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そのため、困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口『子ども・若者応援センター「YELL」』を開設し、自立を支援しています。		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		23,343 千円	千円
		(事業費備考)	
		目安の金額	課長 0.10 人
		3,775 千円	係長 0.15 人
			職員 0.15 人
		(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	・相談者の状況を見ながら、適切な時期に的確なリファアを行い、相談者がより一層円滑に支援を受けられるよう努めます。 ・相談者の自立度に合わせた体験プログラムの内容の更なる充実について、関係機関と連携して研究します。
	関係機関へのリファアについては、関係機関との連携によりまだ改善の余地があると思われます。また、体験プログラムについては、「YELL」単独で行うだけでなく、既存の社会資源の有効活用により効率的かつ有効なプログラムを提供する必要があります。		

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	困難を抱えている子どもや若者	自身の抱える困難を解消し、円滑に社会生活を営めるようになることを目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 「YELL」来所相談者の就業等実績(累計数) 社会生活を円滑に営む上でさまざまな困難を抱えている若者が、「YELL」に来所し、支援を受けることで自立を果たすことができたという成果をはかる指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 500人 (平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 222 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			平成25年度(222人)比増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか 困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口として、子ども・若者応援センター「YELL」を運営します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 就労体験参加者数 相談に来た若者が就労に対する意識を持ち、それを行動に移しているかを測る活動指標として設定しました。 相談を継続している若者の活動自立度の上昇 相談に来た若者が自立に向かって成長をしているかを測る活動指標として設定しました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 472 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			480 人		
		83.4 %	前年度比同水準		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

P D C A チェックシート (平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	青少年課
		課長名	東田
		施策番号	
		I - 1 - (4) - ①	
事業名	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業		
事業概要	「Ⅰ非行防止対策」「Ⅱ非行からの『立ち直り』支援」「Ⅲ薬物乱用の防止と啓発」「Ⅳ地域団体・関係機関との連携強化」の4つの柱をたて、就労支援の取り組みを強化するなど、青少年の非行防止施策を総合的かつ積極的に展開します。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 42,400 千円	27年度執行額 千円
		(事業費備考)	目安の金額 39,950 千円
		課長 1.30 人 係長 1.00 人 職員 2.00 人	人件費
		(人件費備考)	
		■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他	事業手法

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	青少年の健全育成、非行防止対策の成果をより一層高めるため、協力雇用主や関係行政機関との連携を強化し、就労支援をはじめとする立ち直り支援の充実や、地域において見守り活動、青少年健全育成活動に取り組む団体の活性化等を図る必要があります。また、危険ドラッグやネットトラブルへの対応等、青少年を取り巻く有害環境への対策も必要です。	見直し内容 警察や保護観察所との連携を強化し、立ち直りに有効な施策の検討を進めるとともに、協力雇用主会や保護司会の研修会等を通じて、熱意のある協力雇用主を増やしていきます。また、危険ドラッグの乱用やネットトラブル等を未然に防止するため、教育委員会やPTA、地域団体、警察等との意見交換を通じて、効果的な啓発活動に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 青少年	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 非行防止等に取り組む関係機関、団体の連携を図り、青少年が非行や犯罪を犯すことなく、また、加害者にも被害者にもならない地域づくりを進めます。また、非行や犯罪を犯しても、早期に立ち直ることができるような環境づくりに取り組みます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	非行者率(少年人口1,000人当たりの人数)	11.0 人	平成25年 (11.0人) 比減少		
	10歳から19歳までの少年人口1,000人当たりに刑法犯少年が占める割合をい、前年比減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 7.0人 (平成31年度)				
	北九州市協力雇用主見舞金登録者数 非行歴等を有する少年の就労を支援する制度である「北九州市見舞金制度」の登録者数の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(10人)比増加 (平成31年度)	10 人	平成25年度(10人) 比増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか 中学生を主な対象として、非行防止教室やメディアリテラシー教育、薬物乱用防止教育の充実を図り、非行や犯罪被害の未然防止に対する意識を高めます。また、少年補導委員や青少年育成会、地域会議等、青少年の非行防止・健全育成に取り組む団体、また、協力雇用主会や保護司会等、非行からの立ち直りに取り組む団体について、研修会や意見交換会等を通じて活動の底上げを図るとともに、活動意欲の昂進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	非行防止教室等の参加者数	16,727 人	前年度比 同水準		
	市立中学校の生徒を対象とした非行防止教室や、保護者や地域の方々を対象とした出前講演などを実施します。				
	少年補導委員補導活動回数 青少年を対象に補導活動を行う少年補導委員の補導活動件数を活動指標として、前年度比同水準を目指します。	3,882 回	前年度比 同水準		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	青少年課
		課長名	東田
		施策番号	
		I - 1 - (4) - ③	
事業名	若者のための応援環境づくり推進事業		
	不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。そこで、若者のための応援環境づくりを推進します。		
事業概要	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	(人件費備考)		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		1,496 千円	千円
		(事業費備考)	目安の金額
		課長 0.10 人	係長 0.10 人
		職員 0.10 人	2,900 千円
		(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H25年度の評価結果を受けての課題	「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営や「ユースアドバイザー養成講習会」の開催により、ネットワークの強化を行っています。今後も着実な運営・実施が必要です。また、若者向けホームページについては若者の未婚化・晩婚化の問題など、社会情勢を反映した情報提供も行う必要があります。	見直し内容	「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営や「ユースアドバイザー養成講習会」の開催については運営や実施の方法の効率化を図ります。また、若者向けホームページについては若者の結婚に関する情報など社会情勢に対応した内容や機能の充実を図ります。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 困難を抱えている子どもや若者 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 自身の抱える困難を解消し、円滑に社会生活を営めるようになることを目指します。
成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)(上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 子ども・若者応援センター「YELL」の相談件数 社会生活に困難を抱える若者が自立するうえで、まず子ども・若者応援センター「YELL」に相談することが大きなきっかけとなります。市内には何の支援も受けずに困難を抱えたままの若者がまだ大勢いることが予想されることから、この指標を設定しています。 (最終目標と目標年度)平成25年度(2,366人)比増加(平成31年度)
	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 平成25年度(2,366人)比増加
	27年度実績(達成率)
	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 情報発信ツールとしての、若者向けホームページの運営や、関係機関との連携を図る「北九州市子ども・若者支援地域協議会」を運営します。また、ユースアドバイザー養成講習会を開催するなど、応援環境づくりを推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)(上段:指標名 下段:指標の説明) 若者向けホームページへのアクセス件数 インターネット等により、若者に有益な情報(就業支援等の各種施策、各種相談窓口、市の魅力、仲間づくり等)やそれぞれの専門機関の情報等を効果的かつタイムリーに発信し、若者をサポートする環境づくりを進めることで、若者の自立支援に取り組みます。	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	上段:25年度実績 下段:26年度実績 27年度目標 前年度同水準		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	子ども家庭局																								
		担当課	青少年課																								
事業名 子ども・若者応援センター「YELL」の運営		課長名	東田																								
		施策番号 I - 1 - (4) - ③																									
事業概要	不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そのため、困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口『子ども・若者応援センター「YELL」』を開設し、自立を支援しています。		事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()																								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2" style="text-align: center;">コスト</th> <th>事業費</th> <th>27年度当初予算額</th> <th>27年度執行額</th> <th>(事業費備考)</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">人件費</th> <th>目安の金額</th> <th>課長</th> <th>0.10 人</th> </tr> <tr> <td></td> <td>23,343 千円</td> <td>千円</td> <td>千円</td> <td></td> <td>3,775 千円</td> <th>係長</th> <td>0.15 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <th>職員</th> <td>0.15 人</td> </tr> </table>			コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.10 人		23,343 千円	千円	千円		3,775 千円	係長	0.15 人							
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額		(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長		0.10 人																	
		23,343 千円	千円	千円			3,775 千円	係長	0.15 人																		
							職員	0.15 人																			

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	関係機関へのリファーについては、関係機関との連携によりまだ改善の余地があると思われます。また、体験プログラムについては、「YELL」単独で行うだけでなく、既存の社会資源の有効活用により効率的かつ有効なプログラムを提供する必要があります。	見直し内容
			<ul style="list-style-type: none"> 相談者の状況を見ながら、適切な時期に的確なリファーを行い、相談者がより一層円滑に支援を受けられるよう努めます。 相談者の自立度に合わせた体験プログラムの内容の更なる充実について、関係機関と連携して研究します。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況		
	困難を抱えている子どもや若者	自身の抱える困難を解消し、円滑に社会生活を営めるようになることを目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 「YELL」来所相談者の就業等実績(累計数) 社会生活を円滑に営む上でさまざまな困難を抱えている若者が、「YELL」に来所し、支援を受けることで自立を果たすことができたという成果をはかる指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 500人 (平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 平成25年度(222人)比増加	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
		222 人			

活動計画	どうやって目的を達成するか 困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口として、子ども・若者応援センター「YELL」を運営します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 就労体験参加者数 相談に来た若者が就労に対する意識を持ち、それを行動に移しているかを測る活動指標として設定しました。 相談を継続している若者の活動自立度の上昇 相談に来た若者が自立に向かって成長をしているかを測る活動指標として設定しました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 27年度目標 480 人 前年度比同水準	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
		472 人			
		83.4 %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要		担当局	子ども家庭局					
		担当課	青少年課					
事業名		課長名	東田					
		施策番号						
事業概要		I - 1 - (4) - ③						
		■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()						
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.30 人	(人件費備考)
		42,400 千円	千円			39,950 千円	係長 1.00 人 職員 2.00 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 青少年の健全育成、非行防止対策の成果をより一層高めるため、協力雇用主や関係行政機関との連携を強化し、就労支援をはじめとする立ち直り支援の充実や、地域において見守り活動、青少年健全育成活動に取り組む団体の活性化等を図る必要があります。また、危険ドラッグやネットトラブルへの対応等、青少年を取り巻く有害環境への対策も必要です。	見直し内容	警察や保護観察所との連携を強化し、立ち直りに有効な施策の検討を進めるとともに、協力雇用主会や保護司会の研修会等を通じて、熱意のある協力雇用主を増やしていきます。また、危険ドラッグの乱用やネットトラブル等を未然に防止するため、教育委員会やPTA、地域団体、警察等との意見交換を通じて、効果的な啓発活動に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 青少年	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 非行防止等に取り組む関係機関、団体の連携を図り、青少年が非行や犯罪を犯すことなく、また、加害者にも被害者にもならない地域づくりを進めます。また、非行や犯罪を犯しても、早期に立ち直ることができるような環境づくりに取り組みます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 非行者率(少年人口1,000人当たりの人数) 10歳から19歳までの少年人口1,000人当たりに刑法犯少年が占める割合をい、前年比減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 7.0人(平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 11.0 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	北九州市協力雇用主見舞金登録者数 非行歴等を有する少年の就労を支援する制度である「北九州市見舞金制度」の登録者数の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(10人)比増加(平成31年度)	10 人	平成25年度(11.0人)比減少		

活動計画	中学生を主な対象として、非行防止教室やメディアリテラシー教育、薬物乱用防止教育の充実を図り、非行や犯罪被害の未然防止に対する意識を高めます。また、少年補導委員や青少年育成会、地域会議等、青少年の非行防止・健全育成に取り組む団体、また、協力雇用主会や保護司会等、非行からの立ち直りに取り組む団体について、研修会や意見交換会等を通じて活動の底上げを図るとともに、活動意欲の昂進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 非行防止教室等の参加者数 市立中学校の生徒を対象とした非行防止教室や、保護者や地域の方々を対象とした出前講演などを実施します。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 16,727 人	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	少年補導委員補導活動回数 青少年を対象に補導活動を行う少年補導委員の補導活動件数を活動指標として、前年度比同水準を目指します。	3,882 回	前年度比同水準		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	青少年課
		課長名	東田
		施策番号	
		Ⅱ - 1 - (3) - ⑤	
事業名	「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」運営事業		
事業概要	「Ⅰ非行防止対策」「Ⅱ非行からの『立ち直り』支援」「Ⅲ薬物乱用の防止と啓発」「Ⅳ地域団体・関係機関との連携強化」の4つの柱をたて、就労支援の取り組みを強化するなど、青少年の非行防止施策を総合的かつ積極的に展開します。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 42,400 千円	27年度執行額 千円
		(事業費備考)	目安の金額 39,950 千円
		課長 1.30 人 係長 1.00 人 職員 2.00 人	人件費
		(人件費備考)	
		■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他	事業手法

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	青少年の健全育成、非行防止対策の成果をより一層高めるため、協力雇用主や関係行政機関との連携を強化し、就労支援をはじめとする立ち直り支援の充実や、地域において見守り活動、青少年健全育成活動に取り組む団体の活性化等を図る必要があります。また、危険ドラッグやネットトラブルへの対応等、青少年を取り巻く有害環境への対策も必要です。	見直し内容 警察や保護観察所との連携を強化し、立ち直りに有効な施策の検討を進めるとともに、協力雇用主会や保護司会の研修会等を通じて、熱意のある協力雇用主を増やしていきます。また、危険ドラッグの乱用やネットトラブル等を未然に防止するため、教育委員会やPTA、地域団体、警察等との意見交換を通じて、効果的な啓発活動に取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 青少年	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 非行防止等に取り組む関係機関、団体の連携を図り、青少年が非行や犯罪を犯すことなく、また、加害者にも被害者にもならない地域づくりを進めます。また、非行や犯罪を犯しても、早期に立ち直ることができるような環境づくりに取り組みます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	非行者率(少年人口1,000人当たりの人数)	11.0 人	平成25年(11.0人) 比減少		
	10歳から19歳までの少年人口1,000人当たりに刑法犯少年が占める割合をい、前年比減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 7.0人 (平成31年度)				
	北九州市協力雇用主見舞金登録者数 非行歴等を有する少年の就労を支援する制度である「北九州市見舞金制度」の登録者数の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(10人)比増加(平成31年度)	10 人	平成25年度(10人) 比増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか 中学生を主な対象として、非行防止教室やメディアリテラシー教育、薬物乱用防止教育の充実を図り、非行や犯罪被害の未然防止に対する意識を高めます。また、少年補導委員や青少年育成会、地域会議等、青少年の非行防止・健全育成に取り組む団体、また、協力雇用主会や保護司会等、非行からの立ち直りに取り組む団体について、研修会や意見交換会等を通じて活動の底上げを図るとともに、活動意欲の昂進を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	非行防止教室等の参加者数	16,727 人	前年度比 同水準		
	市立中学校の生徒を対象とした非行防止教室や、保護者や地域の方々を対象とした出前講演などを実施します。				
	少年補導委員補導活動回数 青少年を対象に補導活動を行う少年補導委員の補導活動件数を活動指標として、前年度比同水準を目指します。	3,882 回	前年度比 同水準		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局	
		担当課	子ども総合センター	
		課長名	田村	
事業概要		施策番号		
事業名	児童虐待防止(子どもの人権擁護)推進事業		Ⅱ - 3 - (1) - ④	
事業概要	児童虐待の早期発見及び被虐待児童の迅速かつ適切な保護を行うため、関係機関との連携強化を図り、児童虐待の防止等のために必要な体制を整備するとともに、関係機関等の職員の研修及び広報活動を行います。		事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)
		18,061 千円	千円	
			目安の金額	課長 0.80 人
			33,200 千円	係長 0.90 人
				職員 2.00 人
				(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 関係機関職員を対象にした「児童虐待対応リーダー養成研修」や市民にも広く周知を図った「児童虐待問題連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数は増加していることから、児童虐待を重篤化させないためには、関係機関との連携を密に図ることに加え、地域住民等への周知啓発が必要です。	見直し内容	関係機関職員、市民等を対象とした研修や講座、出前講演等に積極的に取り組むとともに、児童虐待の法的な部分に対抗できるよう、弁護士等の有識者を活用した関係職員の能力向上策にも努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 児童虐待事案	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 児童虐待に関する啓発や研修を積極的に行うとともに、児童虐待の早期発見、早期対応に努め、事案の減少を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 児童虐待対応件数 児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標にあげました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(380人)比減少(平成31年度)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 380 件	27年度目標 平成25年度(380人)比減少	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由

活動計画	どうやって目的を達成するか 児童虐待相談対応体制の強化を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 児童虐待問題連続講座の参加者数 市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」などを実施した結果、児童虐待通告件数が増加したことから、参加者数を指標として掲げました。	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績 304 人	27年度目標 前年度比増加	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
		児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数 児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。	177 人	—	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	子育て支援課
		課長名	西尾
事業概要		施策番号	
事業名	児童虐待防止医療ネットワーク事業		Ⅱ - 3 - (1) - ④
事業概要	児童虐待の早期発見、早期対応につなげるため、中核的な小児救急病院等に児童虐待コーディネーターを配置し、地域の医療機関から児童虐待対応に関する相談への助言を行うなど、医療機関を中心としたネットワークを構築し、児童虐待対応への必要な体制整備を行います。		<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		4,500 千円	千円
		(事業費備考)	目安の金額
		人件費	課長 0.01 人 係長 0.10 人 職員 0.15 人
		2,240 千円	(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H25年度の児童虐待に関する相談件数は年々増加しており、医療機関でも虐待が疑われる児童の受診も増えていると考えられます。しかし、医療機関によっては知識や経験が不十分のため、適切な対応ができていない可能性も考えられます。	見直し内容	虐待防止の拠点病院を指定し、虐待専門のコーディネーターを配置することで、医療機関相互のネットワークづくりを推進します。併せて、医療機関が関わった事例などをお互いに検討する場を設け、虐待通告の徹底、診断や治療のスキルアップを図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 児童虐待事案	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 核となる医療機関を中心に、児童虐待対応のネットワークづくりや保健医療従事者への研修等を行い、虐待の早期発見、早期対応につながる適切な対応ができる体制づくりを進めます。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方) 児童虐待対応件数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定(最終目標と目標年度) 平成25年度(380人)比減少(平成31年度)	380 件	平成25年度(380件)比減少		

活動計画	どうやって目的を達成するか 中核的な小児救急病院等に児童虐待コーディネーターを配置し、地域の医療機関から児童虐待対応に関する相談への助言や、保健医療従事者に対する研修等を行い、虐待対応の体制整備を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明) 児童虐待対応向上のための教育研修の参加者数	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	保健医療従事者に対する研修を行い、児童虐待対応に対する理解を深めてもらうことが虐待の早期発見に必要と考えるため、参加者数を指標として掲げました。	-	前年度比増加		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	子ども家庭局
							担当課	子育て支援課
事業名							課長名	西尾
							事業概要	
子ども・家庭相談コーナー運営事業							II - 3 - (1) - ④	
事業概要							事業手法	
各区役所に「子ども・家庭相談コーナー」を設置し、子どもと家庭に関するあらゆる相談をひとつの窓口で受け、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげています。							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人	
		87,899 千円	千円		6,075 千円	係長	0.10 人	
							職員	0.60 人
							(人件費備考)	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	子どもと家庭をとりまく環境は変化しており、子どもと家庭に関する相談は多様化・複雑化しています。計画的な研修を通じて相談員の資質の向上を図る等の必要があります。	見直し内容
			相談員を対象に年間を通じて計画的に行っている初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	子どもや家庭等の悩みや不安を持つ相談者	「子ども・家庭相談コーナー」で、子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	児童虐待対応件数	380 件	平成25年度(380件) 比減少		
	児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待防止につながり、結果として、児童虐待対応件数の減少として現れることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 平成25年度(380件)比減少(平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	相談件数	76,801 件	-		
	各区の「子ども・家庭相談コーナー」において、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	男女共同参画推進課
		課長名	櫻江
		施策番号	
		Ⅱ - 3 - (2) - ①	
事業名	男女共同参画センター及び勤労婦人センター管理運営事業		
事業概要	男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進します。		
コスト	事業費	27年度当初予算額 336,918 千円	27年度執行額 千円
		(事業費備考) 施設等管理費 271,958千円を含む	
	目安の金額	課長 0.30 人 係長 0.40 人 職員 0.20 人	人件費
		8,950 千円	(人件費備考)

事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

【Action】改善		
課題	H25年度の評価結果を受けての課題 新たに、共働きをしながら子育てをする夫婦を支援する講座等を実施し、また女性の就業・キャリアアップ支援に重点を置き計画どおり実施しましたが、今後はさらに女性の活躍による経済社会の活性化に向けた取り組みが必要です。	見直し内容 女性の就職・再就職、またキャリアアップ推進のための講座などに工夫を加え、より効果的になるよう取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	社会全体	働く場における女性の活躍の推進や、子育て等の家庭生活における男女共同参画のさらなる推進を図るとともに、男女共同参画に関する市民の理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	男女共同参画社会という言葉の認知度	平成28年度 調査予定	平成23年度 (68.9%)の水準 より増加		
	広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。 (最終目標と目標年度) 80% (平成30年度)				
	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	平成28年度 調査予定	平成23年度 (38.7%)の水準 より減少		
	広報・啓発事業の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」を設定しました。 (最終目標と目標年度) 平成23年度(38.7%)の水準より減少(平成30年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、講座やセミナーの開催等、男女共同参画の推進のための様々な事業を実施し、男女共同参画社会の形成を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等開催件数	229 件	前年度比 同程度		
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。				
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等参加者数	36,680 人	前年度比 同程度		
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

						担当局	子ども家庭局	
						担当課	男女共同参画推進課	
						課長名	櫻江	
						施策番号		
						II - 3 - (2) - ①		
事業名	地域における男女共同参画推進啓発事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
	地域における男女共同参画の推進を図るため、地域で活動している団体・グループ等が企画・実施する広報啓発活動を支援し、男女共同参画に関する理解を深めていきます。							
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	
		4,139 千円	千円			5,050 千円	係長 0.20 人 職員 0.10 人	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、性別による固定的役割分担意識は薄れてきましたが、北九州市女性団体連絡会議及びNPO等との協働による啓発事業に、より多くの市民参加を促し、地域における男女共同参画意識の向上を目指す必要があります。	見直し内容 北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で、「男女共同参画フォーラムin北九州」や男女共同参画に関する広報啓発事業について、若年層を含めた幅広い層を対象に、さらなる男女共同参画意識の向上を図ります。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	地域で活動しているNPO等と協働で、固定的役割分担意識解消のための広報・啓発事業を市民センターなど市内一円でを行い、男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	男女共同参画社会という言葉の認知度 広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。 (最終目標と目標年度) 80% (平成30年度)	平成28年度調査予定	平成23年度の水準(68.9%)より増加		

活動計画	どうやって目的を達成するか	・北九州市女性団体連絡会議との協働による「男女共同参画フォーラムin北九州」を開催します。 ・NPO等の公募による男女共同参画に関する広報啓発事業を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	「男女共同参画フォーラムin北九州」及び男女共同参画に関する広報啓発事業(公募制)の実施回数 北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めることから、活動指標として掲げました。	69 回	前年度比同程度		
	「男女共同参画フォーラムin北九州」及び男女共同参画に関する広報啓発事業(公募制)の参加者数 北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めることから、活動指標として掲げました。	4,254 人	前年度比同程度		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	男女共同参画推進課
		課長名	櫻江
		施策番号	
		Ⅱ - 3 - (2) - ③	
事業名	男女共同参画基本計画推進事業【配偶者等からの暴力対策事業】		
事業概要	配偶者や恋人等、親しい関係にある人からの暴力は、重大な人権侵害であることを誰もが認識し、暴力を容認しない意識の醸成のための広報・啓発を行います。 子どもの頃から男女共同参画意識の醸成や今後の進路選択に役立てるため、市内の小学5・6年生と中学生を対象に男女共同参画についての基本的な項目をまとめた副読本を作成し、配付します。		
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額
		5,976 千円	千円
		(事業費備考) 配偶者等からの暴力対策事業経費 27年度当初予算額 2,529千円	人件費
		目安の金額	課長 0.20 人 係長 0.20 人 職員 0.10 人
		5,050 千円	(人件費備考)

- 事業手法
- 直営 補助金
 - 全部委託 負担金
 - 一部委託 指定管理
 - その他
- ()

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	DVに関する正しい認識や相談窓口の周知のため、今後もNPO等との協働やムーブ主催の出前講座等により効果的な啓発を行っていく必要があります。	見直し内容 NPO等と連携を図り、DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等を地域や学校等において実施し、配偶者等からの暴力に関する正しい認識の促進を引き続き図っていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況		
	市民	配偶者等からの暴力について正しく認識し、それぞれの人権を尊重する意識を醸成します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	配偶者等との間における「平手で打つ」について、暴力と認識する人の割合 DV(配偶者等からの暴力)を根絶するためには、暴力に関する正しい認識の周知・啓発が不可欠であることより、成果指標として設定しました。 (最終目標と目標年度) 70% (平成30年度)	平成28年度調査予定	70 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか ・NPO等との協働による出前講演など、地域・学校などにおけるDV対策広報啓発事業を実施します。 ・DV対策関係機関連絡会議を開催します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等の実施回数	43 回	前年度比同程度		
	NPO等との協働やムーブ主催の出前講座等により、地域・学校等におけるDVに対する正しい認識を深め、潜在しているDV被害者の支援に努めます。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	子ども家庭局
							担当課	保育課
事業名 特別保育事業補助							課長名	黒岩
							施策番号	
事業概要 保護者の就労形態の多様化等に対応するため、保育所の保育時間を午後7時もしくは8時まで延長する「延長保育」の充実を図ります。また、保護者のパート就労や冠婚葬祭、および育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育する「一時保育」の充実を図ります。さらに、保育所の通常保育に加え、延長保育や一時保育においても、統合保育の可能な障害のある児童の受け入れを行う「障害児保育」の充実を図ります。							事業手法	
							<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人	(人件費備考) 係長 0.10 人 職員 0.20 人
		768,115 千円	千円			3,650 千円		

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	成果指標として設定した「保育所に対する満足度(教育・保育の内容)」は、高い割合で推移していますが、保護者の就労形態の多様化等に伴い、子育て環境は変化しています。保育所特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズに合わせ、受け入れ態勢を整えていきます。	見直し内容 成果指標である「保育所に対する満足度(教育・保育の内容)」の更なる向上を目指し、特別保育事業(延長保育、一時保育、障害児保育)に対するニーズの変化などの状況把握に努め、ニーズに合った利用可能施設数を拡充してまいります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	児童および保護者	保育所の特別保育事業の拡充および質の向上を図ることで、安全安心な子育て環境を整備し、安心して働き、子育てできる社会を実現します。また、障害のある児童を含め、子どもの福祉向上を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	保育所に対する満足度(教育・保育の内容)	89.6 %	平成25年度(89.6%)比向上		
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みに対する成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度)平成25年度(89.6%)比向上(平成31年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか	引き続き、延長保育実施施設数および一時保育実施施設数を増やすことで、活動指標で定めた目標数を達成します。障害児保育については、既に統合保育が可能な障害児の受け入れを全保育所で取り組むと同時に、直営保育所においては、統合保育が可能な重度障害児の受け入れも行っていきます。また、延長保育および一時保育における、障害児保育の実施率の向上にも努めていきます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標		
活動指標	延長保育を実施する保育所の施設数	148 所	153 所		
	保育所の新設や公立民営化に伴う延長保育の実施、既存保育所の新規実施により、延長保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながることから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」に基づく)				
	一時保育を実施する保育所の施設数	67 所	77 所		
	保育所の新設や改築により、一時保育室を設置するなどして、一時保育実施施設数を増やすことが多様な保育ニーズの対応につながることから、活動指標として掲げました。(目標数は「元気発進！子どもプラン(第2次計画)」に基づく)				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

		担当局	子ども家庭局
		担当課	男女共同参画推進課
		課長名	櫻江
		施策番号	
		IV - 3 - (2) - ②	
事業名	男女共同参画センター及び勤労婦人センター管理運営事業		
	事業概要		
男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、施設の運営をはじめ、地域に根ざした男女共同参画推進、女性リーダー育成、就職・再就職に向けた就業・キャリアアップ支援、あるいは相談事業など、様々な事業を展開し、男女共同参画社会の形成を推進します。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	27年度当初予算額	27年度執行額	(事業費備考) 施設等管理費 271,958千円を含む
	336,918 千円	千円	目安の金額
		人件費	課長 0.30 人 係長 0.40 人 職員 0.20 人
		8,950 千円	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	新たに、共働きをしながら子育てをする夫婦を支援する講座等を実施し、また女性の就業・キャリアアップ支援に重点を置き計画どおり実施しましたが、今後はさらに女性の活躍による経済社会の活性化に向けた取り組みが必要です。	見直し内容 女性の就職・再就職、またキャリアアップ推進のための講座などに工夫を加え、より効果的になるよう取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	社会全体	働く場における女性の活躍の推進や、子育て等の家庭生活における男女共同参画のさらなる推進を図るとともに、男女共同参画に関する市民の理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	男女共同参画社会という言葉の認知度	平成28年度 調査予定	平成23年度 (68.9%)の水準 より増加		
	広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。 (最終目標と目標年度) 80% (平成30年度)				
	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	平成28年度 調査予定	平成23年度 (38.7%)の水準 より減少		
	広報・啓発事業の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」を設定しました。 (最終目標と目標年度) 平成23年度(38.7%)の水準より減少(平成30年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディス(もじ・やはた)において、講座やセミナーの開催等、男女共同参画の推進のための様々な事業を実施し、男女共同参画社会の形成を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等開催件数	229 件	前年度比 同程度		
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。				
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画推進に係る各種講座・講演会等参加者数	36,680 人	前年度比 同程度		
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発の推進や、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援、また、男性の家事・子育て等への参画促進を目的とした各種講座や講演会等を開催します。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

PDCAチェックシート(平成 27 年度実績評価)

事業概要							担当局	子ども家庭局
事業名 (公財)アジア女性交流・研究フォーラム事業							担当課	男女共同参画推進課
							課長名	櫻江
事業概要 「国際的な最新情報の収集・発信」「成果の地域還元」「フェイスtoフェイスの国際交流」「あらゆる分野での女性のエンパワメント」「次世代育成」「男性の視点からの男女共同参画の推進」「DV相談体制等の強化」「情報提供の充実」を目指し、様々な事業を実施する、(公財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援します。							施策番号	
							VII - 1 - (3) - ③	
コスト							事業費	
							27年度当初予算額 68,990 千円	27年度執行額 千円
事業手法							()	
							<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	

【Action】改善			
課題	H25年度の評価結果を受けての課題	幅広い市民の参加、理解を図るため、市民の視点やニーズに合ったテーマを設定した講演会やセミナーを開催することが必要であると考えます。また、市の政策課題である「第3次男女共同参画基本計画」の重点取組みに直結した業務を行い、その成果を市民や地域へ還元していく必要があります。	見直し内容
			国際的な視点からの男女共同参画の推進に加えて、「第3次男女共同参画基本計画」の具体的な施策を具現化するための事業に集中して取り組みます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 社会全体	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 日本及びアジア諸国の男女共同参画に関する調査・研究、国際交流・研修、情報収集・発信等を行う(公財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援し、市民にわかりやすい形で情報発信や地域貢献を行い、本市における男女共同参画社会の形成を推進します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	男女共同参画社会という言葉の認知度	平成28年度 調査予定	平成23年度 (68.9%)の水準より増加		
	広報啓発事業や就労支援事業などの様々な事業推進の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「男女共同参画社会という言葉の認知度」を設定しました。 (最終目標と目標年度) 80% (平成30年度)				

活動計画	どうやって目的を達成するか 日本及びアジア諸国の男女共同参画に関する調査・研究事業、国際交流・研修事業、情報収集・発信事業を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 25年度実績 下段: 26年度実績	27年度目標	27年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民に身近なテーマについてのセミナーや講演会の開催	—	前年度の水準を維持		
	市民に身近なテーマについて、セミナーや講演会を開催し、市民の男女共同参画意識の醸成を図ります。				
	市民にわかりやすい情報発信	—	前年度の水準を維持		
	市民にわかりやすい情報発信を通して、市民の男女共同参画意識の醸成を図ります。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果)の分析 ※民間活力導入の視点</p>